

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科 5年生

氏名: 伊豆拓哉

授業科目名	海外歯科研修プログラムV
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修ではCLP(口唇口蓋裂)(以下CLP)の放射線学、歯科材料器具、チャリティオペレーション(オペ前後のスクリーニングと抜糸も含む)、小児歯科、矯正歯科、手話を学んだ。</p> <p>チャリティでオペを行うのは衝撃的でした。理由は鹿児島大学では行われてないからです。そもそも全国でそのような活動してる話は聞いたことがありません。その面においては日本より進んでいると感じました。座学においては材料はほとんど変わらないものの日本とでは若干の違いがありましたが日本より患者との距離が近く、より患者を思いやっていると感じました。文化の違いなのかもしれませんが誰1人不快な様子が無かったのが印象的でした。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>日本と比較して大きく違うと感じた事を述べていきます</p> <p>まず食文化です。インドネシアではどんな食材も調理しようという考え方で揚げ物が多かったです。また箸は使わず手で食べる事が多かったです。清潔感では日本と大きく違うと感じました。</p> <p>また日本では深夜にも歩いている人がいますがインドネシアでは日中でも歩いている人はほとんどおらず自転車の人もしませんでした。ほとんどが大型の車やバイクでした。改めて日本は安全な国だと感じました。</p> <p>最後にインドネシアの女性のスカーフについてです。彼女達は真夏関係なくスカーフを深く被り決して髪が見えないようにしていました。日本とは根本的に宗教観が違うと感じました。</p>	
3. 研修前と後での自身の变化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私の中で1番成長したのは宗教に対する考え方と患者との向き合い方に対する考えです。</p> <p>日本は基本仏教ですが多様な宗教のセレモニーを行います。このような国で生きてる私にとってイスラム教の信仰は新しく不思議な感覚でした。1つの宗教に対して敬意を払い祈りなど宗教に関する事を当たり前として行う光景は本当に新鮮でした。何が正しいということではありませんが、文面でしか知らないのと実際に体験するのは大きく異なり世界の多様性とはこの様な事なのかと感じました。</p> <p>患者との向き合い方については日本と大きく異なりました。</p> <p>まずチャリティということもあるのかもしれませんが治療中も患者との距離は近く世間話など、オペ中も医療者同士で話しながら行っていました。日本では考えられないことかもしれません。しかし私も含め実際にこの様な現場にいても誰1人不快になっている人はいませんでした。これも文化の違いと感じました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>鹿児島にも1万人以上の在留外国人がいます。今後日本は高齢化を辿り歯科医不足になります。</p> <p>私は今後インドネシア以外の他の国にも研修に行き多様な文化と医療の違いを学びたいと思いました。</p> <p>そこで学んだ事を日本に帰り地域社会に利用したいと思いました。文化の違いこそあるもののその医療で現在まで維持できている為その国の医療のメリットを理解して日本で利用したいと感じました。</p> <p>歯科医師は今後不足していきます。いい技術や思いがあっても人が足りず貢献出来なかったら意味がありません。ですのて下を育てたいと思いました。具体的には高校などに講演の機会を設けて頂いたり、チャリティで歯科検診を行いたいと思いました。</p> <p>今後も国際医療人の1人として学び活動し続けたいと思いました。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学科5年

氏名: 古財奈津希

授業科目名	海外歯科研修プログラムV
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>主に口唇口蓋裂に関するプログラムでした。口唇口蓋裂に関与する、口腔外科、矯正科、歯周病科、小児科、補綴科、麻酔科の講義を受け、また日本では習ったことがなかったサインランゲージ(身振りで会話するコミュニケーション手段で、手話のようなもの)を習いました。そして口唇口蓋裂のチャリティーイベントに参加しました。術前のスクリーニング、手術室への入室、術後の管理まで通して見学させていただきました。実習ではNAMを作成しました。また、学会にも参加させてもらい口唇口蓋裂に関する様々な分野の症例を聞き、縫合のセミナーにも参加しました。色んな先生や学生たち、学生会との交流では、文化や学校生活の共有をしました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地へ行く前は正直緊張していました。なぜなら、インドネシアは過去に海外に行った中で一番遠い国でしたし、イスラム教の文化は色々規則が厳しいイメージがありましたし、学生たちとうまくできるかどうか不安でした。しかし、実際に現地の学生と2週間過ごしてみて、彼らは全く自分と変わりませんでした。アーティストの話で盛り上がり、手術前は一緒に緊張し、進路について一緒に悩んで、最後は別れを惜しみました。住む環境や文化は違っても、中身は一緒でした。また一つ、遠くの地でも同じように歯医者になるように頑張る友人の存在を知りました。そして、インドネシアの学生はみんな勉強熱心で、その姿勢に私も刺激を受けました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修の目標としては、自分の中では”挑戦”を心掛けて参加しました。なんでも積極的に参加し、質問して、食べて、とりあえずやってみました。チャリティーイベントでは、口唇口蓋裂の患者さんやそのご家族と実際に接してみて、前向きに治療に励む姿に感動しました。治す立場にある自分が後ろ向きではいけない、このような人たちが笑顔にできる歯科医師になりたいと思いました。今までの自分だったら、不安や自信のなさが先行して、共感することしか出来なかったと思います。この心境の変化は、違う環境の中で積極的に患者の立場になって考えたり、治療に関わる先生方の考え方を自分のものにして努力した結果で、医療者としての成長だと思いました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>世界には医療者、研究者、教育者として日々奮闘する先生方や、それを目指し頑張る友人の存在、治療を必要とする患者さんやその家族がいることを知りました。日本はあまり、海外と関わろうとしない文化が昔はあったと聞きました。その例として論文を英語で書けなかったと聞きました。それ発見が遅れ、もたらした被害があったというも習いました。今は大分改善され、グローバル化が日本にも広まって来ているみたいですので、私たちもこの流れに乗って世界との垣根が更に無くなっていったらと願います。そのためには、世界情勢に目を向けて、その一員として自分達の成果を発信していけるような歯科医師になりたいです。英語はもちろん、国籍関係なく色んな人と関わる姿勢をもって課題に取り組んでいきたいです。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科5年

氏名: 山下結穂

授業科目名	海外歯科研修プログラムV
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>口唇口蓋裂は治療に長い年月がかかる疾患で様々な科が協力して治療にあたるため、今回の研修では口腔外科の授業だけでなく補綴や小児歯科、放射線など様々な授業や実習を受けることができました。チャリティーでは実際に術前術中術後の現場に参加させてもらい、今まで紙面でしか見たことが無かった創の設計や縫合、術中管理を自分の目で見ることができました。インドネシアでは、日本のように長期にわたって色んな職種による緊密な連携がとられた治療を受けることはまだまだ難しいようではあるが、患者やその家族、治療に関わる全ての医療従事者の前向きさと成功への熱意はすさまじいものであった。</p> <p>語学の面では、インドネシアの学生の英会話力の高さに圧倒された。自分たちの考えていることをすらすらと英語で伝えることができる彼らと自分との差に歯がゆい思いをすることが度々あり、英語の勉強が意欲出た。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地での生活はとて新鮮で楽しかった。自分の中でのなるべく現地の人たちの生活と同じような生活を送りたかったため、食や食べ方など何でも教えてもらって挑戦した。お米を手ですくって食べるのは難しかったが、それなりに現地の人たちに近づけた気がして嬉しかった。とはいえやはり衛生面は心配だったため、ウエットティッシュとアルコールの持ち歩きは必須だった(手で食べることが普通なためご飯を食べるお店ではだいたい手を洗う場所が設置されているが)。また現地の人たちと関わって大きく違うことを痛感したのは宗教についてである。友達の大半がイスラム教徒であり、一緒にいる時でもお祈りの時間がくるとお祈りをしに行くところを目にした。宗教について聞いていいのか最初は戸惑ったが、みな自分の宗教についていろんなことを教えてくれた。みな熱心で勤勉だった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の学生と交流して自分との差を一番感じたのは、自分の興味に対する追及への貪欲さと積極性である。特に友人のSに手術創の設計について教えてもらったときにはとても感心した。日本の授業では詳細まで学んだ記憶がなかったが、Sは自分でも勉強したのと口腔外科の先生にたくさん教えてもらったらしい。自分の興味を追求し努力し続ける彼女はとてもかっこよかったし、自分が今まで何となく大学の授業を受けていたことに気付かされた。私は現状興味のある分野がありすぎて進路に悩んでいるが、彼女のように知りたい学びたいと思ったことに対して躊躇せず追及していかなければと奮い立たされた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>おそらく今後日本に移住する外国人が増えてくると思うが、その人たちが気軽に歯科を受診する環境はなかなか整っていないように感じる。外国人向けの保険制度の確立も大事ではあるが、インドネシアのようなチャリティーイベントを開催し気軽に外国人が歯科受診できるようにすることや、(歯科)医療の際に必要な英語力の向上なども必要になってくると思う。外国人移住者に対し様々な意見があると思うが、日本や地域社会の発展のためにはとても貴重なと私は考えるため、外国人向けの対策をすることも立派な地域社会の発展への貢献につながると思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部5年

氏名: 山口舞

授業科目名	海外歯科研修プログラムV
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ブラジジャヤ大学では今回口唇口蓋裂をテーマとして研修が組まれていました。外科の先生、放射線の先生、歯周病の先生、補綴の先生、小児の先生、矯正の先生といった様々な学問からより詳しく口唇口蓋裂について学ぶ機会となりました。一番のイベントは口唇口蓋裂のチャリティーイベントでした。様々な理由でお金が払えない口唇口蓋裂を持った子どもに対して無償で手術を行うというものでした。今回は手術を行う患者さんの手術前日のスクリーニングから手術日、また抜糸までに過程を見学させていただきました。日本との治療の違い、対応の違い、課題点等様々な観点から学ぶことができました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>国としての1番の違いは宗教の違いに感じました。キリスト教を信仰している人々もいましたが、多くがイスラム教徒の人々で、街中には様々な色合いのモスクが点在しており、お祈りの時間になると街の中でアザーンが流れるというのは日本とは全く異なる生活リズムだと感じました。飲食店の中にお祈りをする場所が設けてあったりと日常生活と宗教が密接に関わっていることは日本人としてとても印象的でした。またインフラは日本はとても整備されていることがトイレや道路、建物の様子からもわかりました。特にインドネシアはトイレトペーパーを流すことができず、そもそも紙ではなく水で流すと言う文化であることを学びました</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修での1番の成長、喜びは英語を通して自分の将来のこと、日常で深く考えている話を表面的ではなく心からお互いに共有し合うことができたということです。決して流暢な英語ではありませんが、ただ事実を述べるような会話ではなく、気持ちを乗せた言葉でコミュニケーションをとることができたことは初めての経験でとても自分としても感動的な心に残る体験でした。このような機会が得られたのも今回寮のような場所に泊まり、毎日インドネシアの友達と顔を合わせ一緒に食事をし、お出かけをし、夜は語り合うという時間が作れたからだと思います。日本よりも人と濃く関わる2週間だったなと感じます。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回インドネシアに行った際本当にたくさんの方がもと鹿児島大学口腔外科教授の中村先生に対して感謝していました。中村先生からも授業の際に当時の話をお聞きしたことがありますが、とても大変な環境であったにも関わらず多くの人から熱い信頼をもたれ、感謝されるということは本当にすごいことだと思います。私自身まだどのような道に進むか定まっていませんが、歯科医師としてだけでなく、一人の人間として困っている人に対して快く助けを差し伸べられるような人になれるよう、まずはこれから病院実習が始まるためチームで協力して切磋琢磨勉学に励みたいと思います。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科5年

氏名: 宮田 彩花

授業科目名	海外歯科研修プログラムV
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回のブラビジャヤ大学のプログラムは、インドネシアにおける口唇口蓋裂がテーマとして挙げられていました。そのため、様々な科の視点からみた口唇口蓋裂に関する講義を受講することができ、病院では口唇口蓋裂の患者さんの治療を見学させていただきました。私は遅れての参加であったため、プログラムの全てに参加することは叶いませんでしたが、術後の患者さんへのケアを見学したり、病院の設備やシステムについて伺う機会に恵まれ大変貴重な機会でした。また口唇口蓋裂に関する日本とインドネシアの同異について学べ、興味深かったです。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>インドネシアは多くの島から構成されていることもあり、数多くの多彩な文化と言語があり、その異文化を肌で感じる機会に恵まれました。特に食事では日本との文化の違いを強く感じました。手を使って食事をする伝統的な食べ方を体験したり、日本では味わえない味付けや食べ物をいただくことができました。また、信仰について考えさせられました。日本にいるときはあまり信仰について考える機会がなかったのですが、インドネシアでは様々な宗教を信仰している方々が混在していることが日常であり、個人によって信仰の程度も異なっていました。その在り方を互いに尊重し合う姿勢が強く印象に残りました。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>このプログラムへ参加する前まで、私にとってインドネシアへ行くことは未知への挑戦でした。宗教も文化も大きく異なる環境の中、現地の学生の日常を非日常として経験するものだと思っていたためです。初めは日本と大きく異なる街並みや生活に圧倒されていましたが、現地の学生と交流するにつれ、異なるのは環境だけだということに気付かされました。特に印象強く残った経験は、現地の友人との書店巡りです。おすすめの本を紹介してもらったり、幼い頃お互い読んでいた本の話で盛り上がりたりと、日本にいる友人と変わらない歓談がありました。異文化で生まれ育った者同士でも人と人の関わりは変わらないことを強く実感した時間でした。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回のプログラムは口唇口蓋裂におけるインドネシアと日本との同異を学ぶとともに、文化の違いを強く感じる時間を過ごしました。グローバル化が進み、多文化共生の重要性が高まる中、一個人としてどうありたいかだけでなく、将来の歯科医療人としてどのように携わっていくかを考える貴重な機会だったように思います。様々な文化的な違いを認め合いながら、地域社会の一員として、将来的には歯科医療という観点から貢献できるようになりたいと感じました。そのため公用語である英語の習得だけでなく、様々な文化に触れて学ぶ機会を増やしていきたいです。</p>	